

砂防だより

平成23年度 第2号

Contents

<1面>

- ・ 高原町内の小中学校で
出前講座

<2面>

- ・ 新燃岳に鋼製牛柵を設置！
～雲仙普賢岳より新燃岳へ緊急搬送～
- ・ いつもお世話になってます！
- ・ 編集担当の「つぶやき」

「砂防だより」は、国土交通省大淀川砂防出張所が作成する、砂防事業広報紙です。大淀川砂防出張所が事業を実施している地域の皆様へ、役場や支所を通じて回覧しています。

<回覧地区>

- 西諸県郡高原町
- 都城市山田町の一部
- 都城市高崎町の一部
- 都城市夏尾及び御池地区

お電話ください



- ご意見、ご質問
- 砂防工事に関する苦情
- 砂防施設の異状通報
- その他情報提供

国土交通省宮崎河川国道事務所
大淀川砂防出張所

〒889-4412
宮崎県西諸県郡高原町西麓
字大迫1847-1
TEL (0984)42-1364
FAX (0984)42-4703

高原町内の小中学校で出前講座

1月26日の新燃岳噴火以降、当出張所では降灰対策や緊急対策工事等による土石流対策を実施してきました。

幸いにも被害を及ぼすような土石流の発生は未だ確認されていませんが、6月25日の小降雨(矢岳雨量観測所:累加76mm 時間最大30mm)において、高原町内の河川で約27,000m³の土砂流出が確認されたことにより、依然として高原町内の河川では土石流発生の可能性が高い状況にあることを再認識しました。

砂防ダムの天端まで土砂が堆積



除石工事完了後(5月中旬)の状況

6月25日降雨後の状況

そこで当出張所では、このような状況を多くの方に認識してもらう目的で高原町内の小中学校を対象とした出前講座を実施することとしました。

8月5日の高原小学校での出前講座を皮切りに、8月23日には広原小学校と狭野小学校で実施し、9月上旬までに高原町内全ての小中学校で実施する予定です。

講座では、国土交通省が行っている仕事の紹介を始め、新燃岳が噴火したときの状況やその後の国土交通省の取り組みと、土石流発生の仕組み等を写真やイラストを交えて説明しました。また、水遊びをする機会も多い夏休み中ということから、川で遊ぶ時に気を付けなければならないことについても説明しました。

対象学年が幅広いことから、特に低学年の児童には難しい内容も含まれていましたが、身近に起きている出来事であるため、みんなの関心も高く、最後に設けた質問の時間では「噴火はいつまで続くのか?」「家が川の近くにあるが、どうすればいいのか?」「土石流が起きたらどうすればいいのか?」といった、災害を心配する内容の質問が多く寄せられました。

また、何人かの児童からは「雨の時には川は危険だということを知って勉強になった」「今回学んだことを活かして自分の身や家族を守りたい」といった心強い感想も聞くことができました。

今後、当出張所では土石流対策工事と並行してこうした広報活動にも積極的に取り組み、地元の皆さんと交流を深めながら防災事業を進めていきたいと考えています。



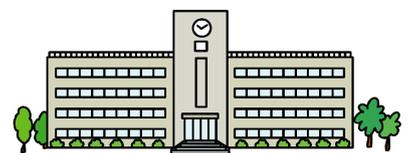
広原小学校の皆さんと記念撮影



真剣に話を聴く狭野小学校の皆さん



高原小学校での実施状況



こうせいうしわく
新燃岳に鋼製牛柵を設置！
 ～雲仙普賢岳より新燃岳へ緊急搬送～

新燃岳周辺においては土石流災害に見舞われることなく、6月28日に無事に梅雨明けを迎えることが出来ました。しかし、梅雨末期の長雨において流木が祓川地区上流の砂防ダムに流れつき、砂防ダムの水抜き穴を閉塞させてしまいました。その結果、砂防ダム上流に水が溜まったことで、さらに大量の水が流れてきた場合には土砂や流木が直接砂防ダムを乗り越えていく可能性が増大したため、3月末までの緊急工事にて確保した土石流ポケットの機能を著しく損なうこととなり、近隣の皆さまに不安を招く結果となってしまいました。

そこで今回、その対策として緊急的に砂防ダムの上流側に鋼製牛柵を設置しました。この鋼製牛柵は元々雲仙普賢岳の水無川に設置されていたもので、同じ国土交通省の出先機関である雲仙復興事務所の協力にて、速やかに新燃岳まで搬送することが出来ました。

鋼製牛柵は溪岸浸食の防止及びそれによる立木の流木化防止や、土石流の減勢等に効果を発揮する小型の砂防構造物であり、まさに今回の目的に合致するものです。

鋼製牛柵を設置するのは大淀川砂防出張所管内では初めてであり、新燃岳噴火に伴う土石流対策としての設置であることからマスコミの関心も高く、設置当日は多くのテレビ局と新聞社が取材に訪れました。

この緊急対策によって、流木が砂防ダムまで流れつくことはほぼ無くなることと思われます。大淀川砂防出張所は地域の皆さまが安心して暮らせるよう、今後もこうした土石流対策に継続して取り組んで参ります。



鋼製牛柵設置状況
 (設置箇所は砂防ダムより約120m上流)

うしわく
「牛柵」って何？

見た目の形や力強さが「牛」に似ていることが名前の由来と言われています。

起源は奈良時代とも言われ、治水事業にも功績のある武田信玄も好んで使っていたそうです。

右の写真のように昔は木や石を用いて作られていたようです。



いつもお世話になってます！

国土交通省の砂防事業に協力していただいている地域の方々をご紹介します。



●都城市 牛の脛地区 山角館長

牛の脛地区では大量の火山灰が降ったため、土石流の発生をいつも気に掛けていらっしゃいます。

5月27日に防災担当大臣が視察に訪れた際は、新規の砂防ダム建設を大臣に直接訴えたそうです。

地域のために一生懸命取り組まれている姿勢は素晴らしいと思います。その反面ちよつと茶目っ気があるとても楽しい方です。



●高原町 花堂地区 長田区長

蒲牟田川の花堂地区での上流工事において、地域のためにいろいろと意見をいただきました。

10月より下流工事が始まりますので、引き続きご尽力をお願いします。

とても紳士な方で、地域の代表として真摯に対応していただいています。

編集担当の



◆女子サッカーの日本代表 (通称：なでしこジャパン) が先日の女子サッカーW杯において優勝という快挙を成し遂げました。

◆久しぶりの明るい話題に日本中が感動と勇気をもたらったのではないのでしょうか。

◆体格の大きい外国の選手を相手に技術やチームワークで最後まで諦めずに闘う姿は世界からも賞賛されていました。

◆我々の仕事もチームワークが非常に大事です。職場内はもちろん、地元自治体の職員や地域の皆さまと共に、自然災害に負けないように頑張りたいと思います。(U)

国土交通省宮崎河川国道事務所
 大淀川砂防出張所 広報紙
 「砂防だより」

平成23年度 第2号

(平成23年8月30日 作成)